

2021年3月実施分 自己評価報告

1、自己評価とは何か

○学校評価（自己評価・関係者評価・第三者評価）の目的

- ①組織的・継続的な改善を図る
- ②幼稚園・家庭・地域の連携協力
- ③一定水準の教育の質の保障と向上

○自己評価のねらい

⇒自己評価：「幼稚園がいま目指している方向に向かっているか」を評価する。

2、麻生明星幼稚園の理念

事業の目的

(1) 建学の精神（ミッション）

1962年9月（昭和37年）わたしたちの幼稚園は誕生いたしました。生みの親は日本基督教団札幌教会（中央区北1東1）です。このことによっても分かりますようにわたしたちの幼稚園はキリスト教の信仰・精神に基づいてたてられています。神と人ともに愛せられる人間の形成をその目標として進んでいます。

(2) 教育目標

敬 虔：聖なる強さと慎み
奉 仕：家庭や地域と共に生きる喜び
創造性：チャレンジする意欲

(3) 教育方針

①キリスト教保育

キリスト教の信仰に基づいて、愛と奉仕の精神を育みます。大人も子どもも神さまに愛されています。当園ではその信仰がすべての基礎です。幼稚園生活の中心には礼拝があり、生活の折々に目を閉じて祈る時間を大切にします。真理に耳をかたむけ、自分で判断し、行動する心を尊重します。

②家庭と幼稚園の協力

保育者は毎日、入念に準備された保育計画をもって幼稚園生活に臨みます。けれども実際は、思いがけない出来事の連続です。その都度、建学の精神に立ち返って「いま、このことを通して子どもに何を伝えるべきか」を見極めていきます。どんな場合でも、子どもの安全と成長を一番に考えるには、子どもに関係するすべての大人たちが、互いを信頼し協力することが必要です。家庭と幼稚園の連携を深めていきましょう。

③地域交流

保育計画に「地域交流」を積極的に取り入れます。すぐそばにいる人であっても、お互いが心を開かなければ交流は生まれません。「失敗を恐れず自分から働きかけること」、また「小さな善意が人間関係を豊かにすること」を経験していきたいと考えています。わたしたちの家庭や社会が、たくさんの人の奉仕によって支えられていることを感じ取りましょう。

3、自己評価の方法について

◎ 十分な取り組みがなされている

○ 前向きな取り組みがなされている

△ 今後一層の努力が必要である

× 取り組みについて根本的な見直しが必要である

		評価	成果と課題
教育目標の実現	教育目標「敬虔」 教育目標「奉仕」 教育目標「創造性」	○	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員各々の生活や働きに「敬虔」と「奉仕」と「創造性」が実現することを目指す。 ・入園時に配布する重要事項説明書に詳しく記載し、保護者の理解を促している。 ・毎日の保育の中で、保育者自身が祈りと感謝の心を持って、子ども達と関わっていく。 ・1日幼稚園を休園とし、職員全体で教育目標・教育方針についての園内研修をおこなっている。
教育方針の実践	教育方針「キリスト教保育」 教育方針「家庭と幼稚園の協力」 教育方針「地域交流」	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活における祈りの時間を設けている。(敬虔) ・子どもたちが、協力して事柄を成し遂げる喜びを感じることができるように促している。(奉仕) ・初めてのことにも挑戦できるように、教師が工夫をして取り組んでいる。(創造性) ・幼稚園ホームページを利用した園での子ども達の様子を紹介している。 ・コロナウイルス感染拡大防止対策の為、地域交流の機会が減少した。
基本的課題	特別支援教育への取り組み	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援の取り組みを幼稚園内のみで抱え込まないようにしたいと考えている。家庭・医療・療育・行政との協力を得る関係づくりを進めつつ、幼稚園としての役割を充実させていきたい。 ・ひとり一人に合わせた記録や個別指導計画を立て取り組んでいる。特に週に1度の職員会議では支援を必要としている園児の情報を共有し、全職員が理解のもと支援する。
	歯と口の健康推進指定校の取り組み	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児、年中児を対象としたフッ化物洗口の実施している。昼食後の歯磨き励行により定着がみられた。
	幼保小連携の取り組み	○	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の連携を電話にて行った。 ・運動会で小学校の体育館を利用し、小学校の雰囲気を感じることができた。 ・小学校生活へのスムーズな移行を考え、今後さらに連携の充実、強化進めていきたい。
	防犯・防災・減災に向けた学び	○	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通り、シェイクアウトへの参加や防災訓練を実施。
	就業規則について	○	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で協力して、長く務められる職場を目指していきたい。 ・住宅手当の改定(増額)を行った。

	計画的な就業について	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 導入計画を立てた。 ・時間内に仕事を終えよう努力をしている。 ・仕事内容を整理・見直ししていくことが課題である。 ・臨時職員の呼称をやめ、準職員として長期雇用を促進。 ・準職員から正職員への契約更新を促進。 ・パート職員の月給制の促進。(契約期間の定め無し) ・バス添乗職員を雇用し、保育職員の負担軽減を図る。
	施設設備 適切な管理更新について	○	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園への移行計画を建て、施設整備を行うこととした。
	園内や地域の環境について 省エネ・清掃・エコロジー等の 理解と取り組み	○	<ul style="list-style-type: none"> ・退勤前に、水道、エアコン、電気等の確認を行っている。 ・加湿器・オゾン発生器等の点検、定期的清掃。 ・清掃職員を継続して雇用している。
	職員の役割理解・連携について	○	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの職務を理解し、取り組むことが出来た。 ・連絡事項等の周知徹底が図られないことがあった。今後の課題として、話し合いを進めていきたい。
保育のあり方	預かり保育 就業支援と子育て支援	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の預かり保育を実施している。 ・預かり保育の実施が、保護者の就業支援に限定されることなく、子育て支援の一環として周知されるよう教職員の理解を深めていきたい。 ・各家庭の事情により幼稚園生活が多様化するなか、こどもの心と体の健康にいっそう配慮していきたい。 ・預かり保育担当職員が職員会議へ参加した。情報の共有や円滑な連携を計る。
	安全・衛生	○	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染拡大防止対策を周知徹底した。 ・加湿器、オゾン発生器を追加購入。通園バスにもオゾン発生器を設置。(コロナ対策) ・職員に対するマスク配布(コロナ対策) ・毎日気象警報・コロナウイルス感染状況、その他の感染症の情報を職員朝礼にて共有している。 ・避難訓練の実施。シェイクアウトに参加した。
	食育と食の安全への配慮	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーの子ども達の情報を職員が共有、理解し、誤食がないように取り組んできた。 ・週1回の給食(全園児対象)と、希望者のみの給食日を設けている。 ・いも掘り遠足を行い、農作物への理解を深めた。
	組織としての質向上の取り組み	○	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの役割を果たすことを促している。 ・副園長、主任、専門リーダーは幹部職員として、全職員との連携を図る。
	保育の計画性 ねらい・取り組み・評価・改善	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、月案、日案を製作し、クラスの子どもの成長にあった計画を立て、取り組んでいる。
	幼稚園情報・個人情報に関する 基本的理解と守秘管理 預かった文書・内部情報・データ	○	<ul style="list-style-type: none"> ・情報、書類は保管場所を決め管理している。